

要介護認定高齢者の社会参加と「おしゃれ」

—買い物支援イベントを通して—

健康スポーツマネジメントコース
5022A316-3 龍野 頼子

研究指導教員：中村 好男 教授

1. 背景

高齢者の介護利用サービス利用者は、厚生労働省の「介護保険事業状況報告」令和3年12月分（10月サービス分）によると、在宅で介護または要支援者向けのサービスを受けた人は約409万人、施設に入所してサービスを受けた人は約96万人である。要介護認定高齢者の多くは、「外出の機会」「買い物行動」など社会参加が制約されている。外出、買い物など普段何気なく行われていることが、要介護認定高齢者にはとても困難な事となっている。

『高齢者は高齢になるにつれて外出の機会を失う傾向にあり、高齢者の外出促進の重要性が高まっている。』（池尾:2014）

社会参加のもう一つの要因「買い物行動」では、介護保険での衣類の買い物は、下着という生活必需品のみ介護支援者に依頼することが出来る。「好みの服を選ぶ」「好みの服を着る」ことも要介護認定高齢者にとって困難な事となっている。『在宅要介護者の生活は、介護保険上「居宅サービス」により支えられている。全て「その者の居宅において」のサービスとなっている。訪問介護は余暇のための外出に対応しておらず、ガイドヘルプサービスも高齢者には提供されない』（鄭:2016）

買い物支援イベント「ファッションお買い物会」を行なう事で制約されている「外出の機会」「買い物行動」などの社会参加の機会となるのではないかと考えた。

以上のような背景を経て、U社では、地域の高齢者施設であるS区社会福祉事業団のデイ・サービス、特別養護老人ホームの利用者及びその家族を対象に、買い物支援イベント「ファッションお買い物会」を2015年から開催し現在まで継続している。

2. 目的

本研究の目的は以下の2点である。

- ① 要介護認定高齢者の多くは、「外出の機会」「買い物行動」など社会参加が制約されている。買い物支援イベントが、制約されている高齢者の為の社会参加の機会となっているか、買い物支援イベント「ファッションお買い物会」の効果を検証する。
- ② 買い物支援イベント「ファッションお買い物会」は、介護支援を受けている高齢者にとって、お買い物によって得る「多様な価値」（鈴木:2014）を体験できる機会になり得るかを検証する。

3. 方法

対象及び調査方法

① 対象者及び調査方法

- (1) 2015年より2022年12月まで計7回、開店時間の1時間前にU社S店に於いて買い物支援イベント「ファッションお買い物会」を実施した。対象者は、S区社会福祉事業団のデイ・サービスを利用しているデイ・サービス利用者、デイ・サービス職員とした。
- (2) 2015年より2022年12月まで計7回、S区社会福祉事業団特別養護老人ホームに於いて訪問型買い物支援イベント「ファッションお買い物会」を実施。対象者は、S区社会福祉事業団特別養護老人ホームの入居者、介護職員とした。

- (1) (2)共に実施後、職員対象にアンケート調査を行った。

② 既往の研究の多様な価値についての検証

「お買い物会にはオンラインストアの価値交換とは異なる多様な価値がある。」（鈴木:2014）とされる多様な価値（会話の機会・普段見られない姿の発現・楽しさの共有・おしゃれへの興味）の効果についてアンケート調査によって明らかにした。アンケート対象者は、世田谷区社会福祉事業団デイ・サービス職員、世田谷区社会福祉事業団特別養護老人ホーム職員とした。利用者の声については、職員が利用者に対し聞き取りを行った。

参加者

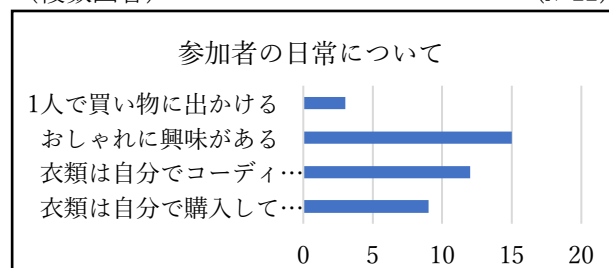
デイ・サービス	特別養護老人ホーム
デイ・ホームR	R ホーム
デイ・ホームK	K ホーム
デイ・ホームT	
デイ・ホームM	

4. 結果

①施設利用者の日常把握（スタッフ聞き取り）

（複数回答）

（N=22）



（人）

買い物支援イベントに参加したディ・ホーム 利用者の「外出の機会」「買い物行動」などの社会参加が制約されていても「おしゃれ」には興味があることが明らかになった。

「お化粧と一緒に、服もおしゃれしたいという気持ちは、いくつになっても変わらないのだと再認識する機会となった。」(ディ・サービス職員)

② 利用者アンケート (聞き取り 自由記述)
スタッフによる聞き取りアンケートを実施、自由記述から逐語録を作成、カテゴリーを導き出し検証した。

外出する機会	自分で選ぶ機会	楽しさ	喜び	店舗
13	10	10	4	7

外出する機会について

- 生活用品は、買いに行くことはあっても、疲れてしまって、服は買いに行かない。こういう機会があるとすごく助かる。

③ スタッフアンケート (自由記述)

外出する機会	自分で選ぶ機会	楽しさ	喜び
10	28	13	11
おしゃれ	普段見られない姿	嬉しい	
10	9	6	

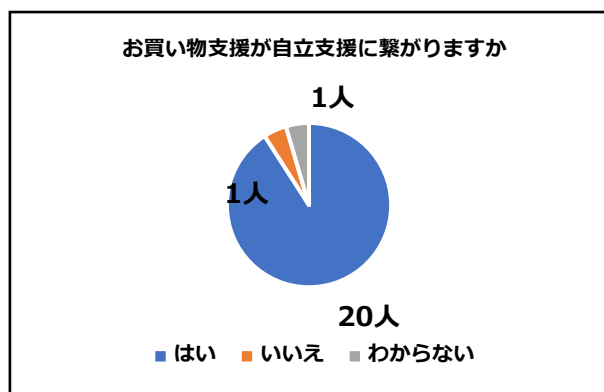
アンケートの自由記述からの抜粋

- 日頃、ご自身でお洋服を買いに行くことが難しい利用者の方々が楽しそうにお洋服を選ばれ、満足そうでした。

④ スタッフアンケート

「買い物支援イベントが自立支援に繋がるか」

スタッフによるアンケートでは、91%が「買い物支援イベントが自立支援に繋がる」と言っている。



(N=22)

買い物支援イベントを行なう事によって次の 3 点が明らかになった。

- ① 要介護認定高齢者の「外出の機会」「買い物行動」などの社会参加が実現出来た。
- ② 好みの洋服を選んで購入する機会がない利用者が好みの服を選び購入する機会を作った。
- ③ 買い物行動による本来の消費行動以外にも副次的価値 (多様な価値) があることが明らかになった。

た。

5. 考察

本研究の結果、買い物支援イベントを行なう事で、要介護認定高齢者の「外出の機会」「買い物行動」など制約を受けている高齢者への「社会参加」が実現できた。それ以外にも買い物支援イベントには「副次的価値」があることが明らかになった。鈴木雄 (2020) は『買い物にはオンラインストアの価値交換とは異なる副次的価値があると言う。鈴木雄の副次的価値を参考に買い物支援イベントで明らかになった「会話の機会」「普段見られない姿の出現」「楽しさの共有」「喜び」「おしゃれへの興味」など副次的価値を検証した。

① 「会話の機会」

ディ・ホーム、ホーム共に普段より増加していた。「言葉掛けの幅が広がり、利用者の新たな面を発見することができる。」(ディ・ホームスタッフ)

② 「普段見られない姿」

「買い物行動」「お金を使う行為」ができることは社会参加でもある。

「普段の生活では見えてこない顔や表情に触れ合えることが出来た。」(特別養護老人ホームスタッフ)

③ 「楽しさの共有」

イベント後のアンケートでもスタッフの 94.9% の利用者が楽しそうだったと答えている。(鈴木春菜 2020) は『消費行動において神的・物理的に他者や地域と親密な接触を有する事により、「楽しさ」やひいては「満足感・幸福感」の水準にも肯定的な影響をもたらすと考えられる』と言っている。

④ 「おしゃれへの興味」

社会参加が制約されても「おしゃれ」には興味があることが明らかになった。小沼 (2000) は、『身体的、精神的な機能の低下を抱えているとしても、女性の施設利用者の多くが、「おしゃれ」に強い関心や興味を失っていないことが明確にされた』と言っている。

6. 結論

買い物難民とも言える要介護認定高齢者に対する買い物支援イベントを行った結果、「外出の機会」「買い物行動」など社会参加が実現出来ただけでなく、数多くの副次的価値 (多様な価値) があることが、買い物支援イベントの中で明らかになった。

参考文献

- 池尾恵里：2014「介助を必要とする高齢者の外出行動の実態と外出支援の課題」都市計画論文集
- 鈴木 雄：2014「買い物における副次的な価値が高齢者の生きがいにもたらす効果に関する研究」秋田大学大学院
- 鈴木 雄：2014「買物の価値の多様性から見た高齢者の買い物行動の実態と買い物支援方策に関する研究」土木学会論文集
- 小沼真理子：2000「高齢者の身体機能と QOL」佐賀医科大学一般教育紀要
- 鈴木春菜：2014『買い物行動における「楽しさ」に影響を及ぼす要因に関する研究』土木計画学研究論文集